

2月22日 本日の為替見直し

ポイント

ユーロ圏財務相会合はギリシャ第2次救済の一環として1300億ユーロの支援を決定し、3月24日のデフォルトは回避された。ギリシャは緊縮財政と経済改革の実行を約束し、2020年までに公的債務をGDP比120.5%（2011年末160%）に削減することが課せられたが、市場ではギリシャの支援の条件をクリアできないのではとの声も多い。もともと、いつもながら、このようなイベントでは、「当局者＝楽観」、「市場参加者＝悲観」で、意見の相違はつきもので、どちらが正しいかは、これからの歴史が判断することになる。

ギリシャ悲観論には、「リセッションを回避できない不安」、「4月実施が予想される総選挙の不安」、ギリシャ国内の社会的不安で「年金と最低賃金、医療と保険支出を削り、国防費を削り、公務員を削減し、資産の売却を約束した結果の不安」、「20%を超える失業率が改善できない不安」……等など多数上げられる。

ギリシャ第2次支援の策定にはトロイカ調査団の報告「基本シナリオ」に基づき、今回のユーロ圏財務相会合は各種同意をした。先日2月15日に、トロイカ調査団がまとめたギリシャの報告書では、「基本シナリオ」と「別シナリオ」がある。基本シナリオに基づいたレポートでは、「◎ギリシャ経済は2012年-4.3%に縮小、2012年も停滞を予測、2014年にプラス成長の回復が見込まれる ◎債務のGDP比は、2013年168%でピーク、2020年129%以下に低下、成長率は2014年～2020年までは2%を上回る」とある。

しかし、20日にロイター社が入手した、報告書では、「ギリシャの回復が中起きに渡り不確実な状態が続く可能性や、ギリシャ政府が際限なく国際支援を必要とする可能性」指摘されていた。また、「債務削減と競争力向上のプログラムの目的には根本的な対立が存在する」ともあり、「ギリシャのプログラムは偶発の事態に陥りやすく、債務の持続可能性に疑問がくすぶる恐れ」ともある。

特に、「経済構造改革や民営化の遅れが続き、景気後退が一段と深刻化する可能性」を懸念し、「このシナリオでは2020年の債務はGDP比160%になる」と、現状と変わらない可能性を示唆し、ギリシャが必要な改革を送入に実施しなければ、基本シナリオの軌道から外れる可能性を警告している。そして、ギリシャが合い2次支援を獲得したとしても、目標を達成できない状況が続く恐れがあり、リスクは下向きと警告している。

もし、これらを全て鵜呑みにすることはできないとしても、ギリシャの第2次支援の合意が最終目標ではなく、いかにして、基本シナリオから軌道が外れないように、ユーロ圏加盟国が協力してギリシャを監視していくのが重要となり、欧州委員会がギリシャに常駐する異例の態勢を取っていることを見ても、当局者は必至で、そのため会議は結果を見るまでに13時間半の時間が必要だったことも納得できる。

今は、テクニカルではEURUSDはブルトレンドに入り、目先は心配ないと思われるが、私も市場参加者の一人として悲観的になりやすいことは十分承知ながら、将来いつ事態が急変するか現状では不安でならない。

本日の重要な経済指標 発言・その他

◎発言・その他

18:30 BOE 金融政策委員会議事録(2月8日～9日)
19:30 ドイツ2年債入札
03:00 米5年債入札独首相・IMF専務理事会談(ベルリン)

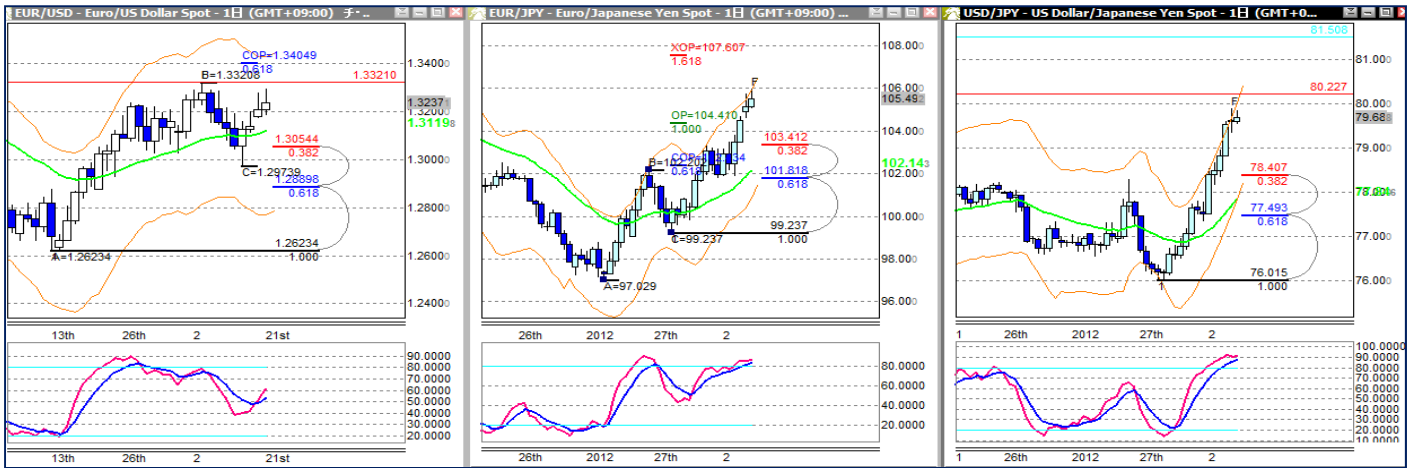
◎注目の経済指標

11:30 中国 HSBC 製造業 PMI
17:30 独製造業 PMI、サービス業 PMI
18:00 ユーロ圏製造業 PMI、サービス業 PMI、総合 PMI
0:00 米中古住宅販売件数

本日の主な経済指標と発表予定

8:00	AUD 12月 CB 景気先行指数=予想 前回-0.3%
8:30	AUD 12月 ウェストパック先行指数=予想 前回-0.2%
11:30	CHN 2月 HSBC 製造業 PMI=予想 前回48.8
17:30	GER 2月 製造業 PMI=予想 51.5 前回51.0、サービス業 PMI=予想 53.9 前回53.7
18:00	EUR 2月 製造業 PMI=予想 49.4 前回48.8、サービス業 PMI=予想 50.6 前回50.4、総合 PMI=予想 50.5 前回50.4
18:30	GBP BOE 金融政策委員会議事録公表
19:00	EUR 12月 鉱工業新規受注=前月比予想0.5% 前回-1.3%、前年比予想-2.8% 前回-2.7%
0:00	USD 1月 中古住宅販売件数=前月比予想1.1% 前回5.0%

EURUSD・EURJPY・USDJPY のマーケット・レベル



EURUSD(日足) = 25 日指数移動平均線は 1.3119、この線を下限に上昇が続いている。DOPup=1.3427、DOPdn=1.2771。スロー・ストキャスティックは%K=60.85、%D=52.92、変化し買いを継続、ベースはニュートラルゾーンに近い。上値のポイントは 1.3321、1.3405、下値のポイントは 1.3054、1.3119。予想レンジは 1.3050 ~ 1.3300。

EURJPY(日足) = 25 日指数移行平均線は 102.14、この線を下限に上昇トレンドが続いている。DOPup=105.91、DOPdn=100.85。スロー・ストキャスティックは%K=86.02、%D=83.06、買いを継続し、トレンドのある上昇への動きの可能性も強く、ベースは買われ過ぎゾーンに近い。上値のポイントは 105.85、107.61、下値のポイントは 103.41、102.14。予想レンジは 104.30~105.85、108.35。

USDJPY(日足) = 25 日指数移動平均線は 77.85、この線を下限に上昇トレンドが続いている。DOPup=80.03、DOPdn=77.83。スロー・ストキャスティックは%K=91.57、%D=87.90 で、買いを継続し、トレンドのある上昇なのか、売りへ変化するかを注視、ベース買われ過ぎゾーンに近い。上値のポイントは 80.22、81.51、下値のポイントは 78.41、77.85。予想レンジは 79.30~80.20、81.51。

本日のCFD見通し Spot.WTIとSpot.Goldのマーケット・レベル

ポイント

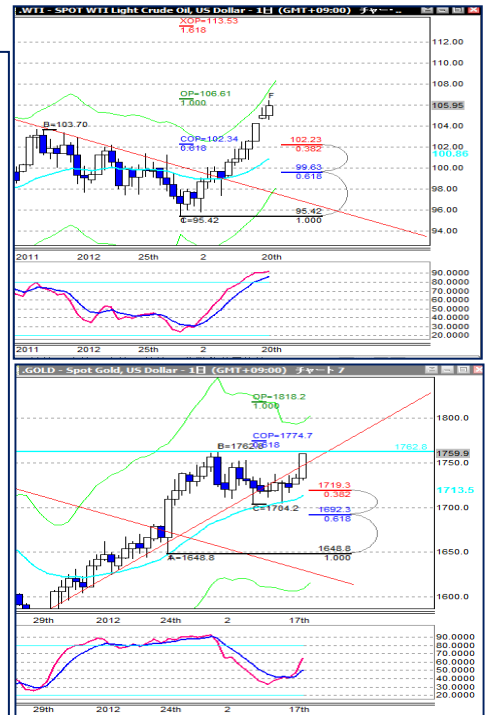
ユーロ圏財務相会合はロングランの末に、ギリシャ第2次支援で合意し、3月24日のギリシャデフォルトが回避する目途がつき、欧州債務懸念が後退して、買い材料となった。一方、イラクが英国・フランスへの石油輸出を停止したことで、買い注文が拡大したとも言われているが、イランと西側諸国は原油という媒体を通じた、政治的な駆け引きを続けている間に、イスラエルの動きも引き続きが危惧されている。ブルムバーグ調査では、今年のインド金輸入は3年ぶりに減少するとの見方が広まったが、長く続いたレンジからようやく動き始めた金価格は、テクニカルポイントをブレイクすることができるのか、注目される。

◎Spot.WTI(Light Crude Oil)

EMAは100.86で上昇トレンドは変わらず、ギリシャ第2次支援の合意に、欧州債務懸念が薄らぎ上昇している。ストキャスティクスは長く続いた買いが売りへ変化するか、非常に注目しており、引き続き日々上昇を続けるようならば、トレンドのある上昇でストキャスティクスのサインは無視する必要があるが、暫く、この見極めが必要となっている。

◎Spot.Gold

EMAは1713.45で上昇トレンドは変わらず、先の高値1762.8を終値ベースで超えて上値をブレイクすることができるのか、非常に注目される。ストキャスティクスは買いへ変化しており、買いの流れが強まっている。



Spot.WTI(Light Crude Oil)(.WTI日足) = 25 日指数移動平均線は 100.86、この線を下限に上昇トレンドが続いている。DOPup=107.38、DOPdn=97.17。スロー・ストキャスティックは%K=92.18、%D=86.70で、トレンドのある上昇なのか、売りへの変化なのか注視、ベースは買われ過ぎゾーン。上値のポイントは 106.61、113.53。下値のポイントは 104.62、104.24。予想レンジは 104.20~106.61、113.53。

Spot.Gold(.GOLD日足) = 25 日指数移行平均線は、1713.45、この線を下限に上昇トレンドが続いている。DOPup=1795.40、DOPdn=1608.58。スロー・ストキャスティックは%K=64.68、%D=50.53で、変化し買いを継続、ベースはニュートラルゾーンに近い。上値のポイントは 1762.8、1774.7、下値のポイントは 1719.3、1713.45、1692.3。レンジ予想は 1720~1775。

前日の海外市場の動き

日本時間 20 日の午後 11 時 30 分から開始した、ユーロ圏財務相会合は各国財務相が民間部門の負担増を要求し、アジア市場が始まってでも合意できず、WSJ 紙で協議は停滞との報道が流れた。インフレ期待が弱かった NZD の売りから始まり、損切りやポジション調整に EURUSD+AUDUSD も一時値を下げた。正午過ぎには「ユーロ圏財務相会合はギリシャ第 2 次支援で合意」との報道に、EURUSD は急伸、リスク資産の買い戻しが強まったが、総じてリスク資産の上昇力は鈍いものとなった。欧州市場・米国市場に入っても予想外に動きは鈍く、原油・金価格の上昇だけが目立った。

◎WSJ 紙が「民間部門の負担増の要求で第 2 次支援協議は停滞」と報道→ EUR 売りやリスク資産の売りが強まる

◎豪中銀の金融政策委員会の議事録公表、→ 金融政策は妥当な判断、需要が著しく弱まる場合には、金融政策のさらなる緩和余地があるとの報道に、直後には値を下げたが直ぐに値を戻す

◎NZ インフレ期待は、前期比 2.5%・前回 2.8%で前回は下回る→ 直後から NZDUSD の売りが始まる

◎13 時間半の長丁場となったユーロ圏財務相会合は、第 2 次支援でようやく合意に達した。ギリシャの公的債務はトロイカ調査団の報告では、2020 年で GDP 比 129%と予想されていた。この水準をギリシャ向け融資金利引き下げ(第 1 次支援の金利を EURIBOR+1.5%まで引き下げ)、民間債権者の負担拡大(債務スワップは 53.5%のヘアカット→実質的には 70~75%の削減との観測)、各国中銀の支援(ECB 保有のギリシャ債の利益を当てる)で 120.5%まで引き下げ、IMF が持続可能という水準に引き下げた。

◎英国 1 月の財政収支は過去 4 年で最大の黒字→ 相場への影響は限定的

◎米国市場は、予想外に同意薄、原油・金価格は上昇へ

USDJPY アジア市場は、79.61 で取引が始まり、ユーロ圏財務相会合の結果待ちとなった。WSJ 紙が「民間部門の負担増の要求で第 2 次支援協議は停滞」との報道に 79.54 まで下落、本邦勢のドル買いに仲値過ぎには 79.80 近くまで上昇、大枠 79.70~75 のレンジで取引が続いた。昼近くに「ユーロ圏財務相会合は第 2 次ギリシャ支援で合意」との報道にも、利食いの売りが強く 79.55 まで下落、東欧勢の買いに 79.85 近くまで上昇した。欧州市場に入ると動きは鈍く、大枠 79.75~85 のレンジで推移したが、弱い欧州株と、大口売りがアジア筋から入り、97.70 のストップの売りに 79.62 近くまで下落。米国市場は同意の乏しい展開が続き、ロンドンフィキシングで一時 79.80 近くまで上昇したが、買いも続かず、大枠 79.65~75 のレンジで取引が続いた。

EURUSD アジア市場は、1.3242 で取引が始まり一時 1.3254 まで上昇したが、ユーロ圏財務相会合が長引き、WSJ 紙の報道に 1.32 割れまで下落、大枠 1.3200~25 のレンジで取引が続いた。長引く会合に 1.3190 近くまで下落したが、第 2 次ギリシャ支援で合意との報道に 1.3292 まで上昇、要人の発言が続く中で大枠 1.3250~75 のレンジで売り買いが交錯した。欧州市場に入ると、上値を試す動きが見られたが、ファンド筋の売りに 1.33 台を達成できず 1.3240 割れまで下落、東欧・アジア筋の買いに再度 1.3280 台へ上昇、またしても失敗し、1.3230 を割り込むと売りが加速し 1.3200 割れまで値を下げた。米国市場は、シンクタンクが「ECB の追加利下げの可能性がなくなった」のレポートを提出、1.3240 台を回復、ロンドンフィキシングでは 1.3275 まで上昇したが続かず、1.3220 台まで値を下げている。

AUDUSD アジア市場は 1.0753 で取引が始まり、長引くユーロ圏財務相会合と、WSJ 紙の報道に売りが強まり 1.0710 台まで下落、豪中銀金融政策委員会の議事録で「需要が著しく弱まる場合には、金融政策のさらなる緩和余地がある」との内容に 1.0700 近くまで値を下げた。一時 1.0730 台まで値を戻したが、長引く会合に 1.0680 割れまで続落し、第 2 次ギリシャ支援で合意との報道に 1.0745 近くまで上昇、要人の発言が続く中で再び 1.0750 近くまで上昇した。欧州市場は、欧州株も弱く、1.0740 台が重くなり利食いの売りに 1.0660 割れまで続落となった。米国市場は、連休明けで同意の乏しい中で、EURUSD も下げ止まり、緩やかに上昇に転じ 1.0700 近くまで値を戻したが、買いも続かず 1.0680~00 のレンジから終盤にかけて 1.0650 台まで値を下げている。

金・原油価格

◎Spot.WTI(Light Crude Oil)

アジア市場は 105.24 で取引が始まり、ユーロ圏財務相の話し合いが長引き、WSJ 紙の報道に 104.84 まで下落、ギリシャ第 2 次支援関連の報道に大枠 104.85~105.20 のレンジで上下、第 2 次ギリシャ支援で合意との報道に 105.42 まで上昇したが、リスク資産の上昇は鈍く、105.01 近くまで値を下げている。欧州市場に入ると、大枠 105.00~40 のレンジで上下し、一時 104.70 割れまで値を下げた。米国市場に入ると、105.40 近くまで上昇→104.60 近くまで下落→105.20 台を回復し、ギリシャ目標達成に疑問の声も多く、一時 106.40 台まで急伸、終盤にかけ105.85 台まで値を下げている。

◎Spot.Gold

アジア市場は 1734.5 で取引が始まり、ユーロ圏財務相会合に行方にも同意は鈍く、一時 1730.4 まで値を下げたが、大枠 1731~36 の狭いレンジで取引が続いていたが、東欧・中東勢の参入に 1742 台まで続伸した。欧州市場は、1742 の上値が重くなり 1735 台まで値を下げ、大枠 1736~1740 のレンジで取引が続いた。米国市場に入ると、1748 台まで急伸、米国株も強く、1756 台まで上昇、一時 1751 台まで値を下げたが、ギリシャ目標達成に疑問の声も多く、終盤にかけ 1759 台まで上昇、高値圏での取引が続いている。

前日の主な発言・出来事

ギリシャ関連	
デヤールヘル・オランダ財務相	＝◎ギリシャの度重なる約束不実行で、トロイカがアテネに常駐するような措置が必要 ◎エスクロー勘定に資金を預けることも賛成 ◎第2次支援規模が1300億ユーロを超えることはあり得ない
シルヴァノフ・ロシア財務相	＝IMFを通じた欧州支援枠を100億ドルまで拡大させる可能性を示唆 ◎はIMFが支援を受けるユーロ諸国から構造改革の実施を確約し、他の支援国が欧州救済に足並みをそろえた場合に限定
スペイン短期債入札	＝◎3か月17億ユーロ0.396%(前回1.285%)、6か月債7.64億ユーロ0.779%(前回1.847%)発行、発行額合計は目標15～25億ユーロの上限に近い← 利回りは大幅低下
ベニゼロス・ギリシャ財務相	＝◎ギリシャの債務交換は、今週中に正式提案をする ◎民間関与などの法案は29日までに可決する必要がある
EU財務相会合	＝◎ユーロ圏諸国の予算計画案に対する監視や評価の強化を求める、予算監視案で合意 ◎ユーロ参加国の監視強化に関する規則を含める ◎空売り規制法を採択 ◎国債ネーキッド(現物の裏付けのない)CDSの選択的禁止も対象
ダララ IIF 専務理事	＝◎ギリシャ救済パッケージが承認され、ギリシャは景気の好転を受ける見通し ◎景気持ち直しには極めて楽観的で、誰もが驚くことになるかもしれない
トロイカ15日レポートの試算	＝◎ギリシャの回復が長期にわたり不確実な状態が続く可能性や、ギリシャ政府が無制限に国際支援を必要とする可能性が示された ◎ギリシャが今後何年かのうちに資本市場に復帰できるか疑問を示していた
トロイカ15日レポートの試算	＝◎ギリシャ経済は2012年-4.3%に縮小、2012年も停滞を予測、2014年にプラス成長の回復が見込まれる ◎債務のGDP比は、2013年168%でピーク、2020年129%以下に低下、成長率は2014年～2020年までは2%を上回る ◎別レポートは、ギリシャGDP、2012年-4.8%、2012年-1.0%それぞれ減少、2016年まで2%の成長を達成できない、債務は2015年にGDP比178%ピークで、2020年に159%になる。
ユーロ圏当局者	＝◎ユーロ圏の各国中央銀行は、ECBが先に実施したのと同様に、損失強制を回避するために投資勘定のギリシャ債を交換する
ジョイブレ独財務相	＝◎IMFは第2次ギリシャ支援で130億を拠出する計画で、第1次プログラムで割り当てられた資金残額100億ユーロを加え、計230億ユーロを融資する方針
ルービニ教授	＝◎ギリシャがユーロに止まれば、ギリシャのリセッションはディプレッション(恐慌)へ変わり、社会・政治的混乱につながる ◎いずれ大きな社会・政治的混乱につながり、暴力的な反応や革命が起こりえるだろう
ギリシャ政府	＝◎21日に自発的な債務スワップと集団行動条項に関する法案、財政緊縮法案の2法案を議会に提出
ビーン BOE 副総裁	＝◎ギリシャ支援決定でもユーロ圏のリスクは残る ◎英国にとって最大の下振れリスク
トロイカ	＝◎ギリシャ銀行の追加増資必要額は500億ユーロで、従来の300欧ユーロから引き上げた

ユーロ圏財務相会合	
WSJ紙	＝◎民間部門の負担増の要求で、第2次支援協議は停滞
新規融資の条件や中銀の関与の可能性	で意見がまとまらず、深夜まで継続
EU当局者	＝◎ユーロ圏財務相会合は第2次ギリシャ支援で合意 ◎財務相は来月のデフォルトを回避するため、必要となる債務交換で民間投資家に一段の減免を受けるように圧力を加えた
ユーロ圏財務相会合が終了	
ドラギ ECB 総裁	＝◎ギリシャ政府の行動を歓迎 ◎ギリシャの成長・安定に向けた行動をとるとのコミットを歓迎 ◎ギリシャ主要政党が支援策の指示をしたことは重要 ◎実行を適切に監督することが重要 ◎ギリシャ支援でECBの役割についてコメントせず
モンティ・イタリア首相	＝◎今回の合意はギリシャとユーロ圏や市場に役立つ ◎ユーログループは良い結果に達した ◎ギリシャ債保有者はより大きな減免に同意した
ユンケル議長	＝◎ユーロ圏財務相会議はギリシャで広範囲に合意 ◎債務スワップの高い参加率を予想 ◎ギリシャ債の民間債権者のヘアカットは53.5%、新発債金利は2014年まで2%、2015～20年3%、その後4.3% ◎トロイカはアテネでのプレゼンスを大幅に高める ◎ユーロ圏とIMFは1300億ユーロを供与
レーン欧州委員会委員	＝◎ギリシャ債務は2020年にGDP比120.5%に低下を予想 ◎ギリシャは債務返済でエスクロー(分離口座)を創設 ◎投資環境の改善が必要 ◎ユーロ圏はギリシャへの金利引き下げで合意 ◎ギリシャの主な課題は成長促進 ◎次回EU首脳会議は融資上限で合意の見込み
ラガルド IMF 専務理事	＝◎3月第2週にIMF理事会に合意を図る ◎IMFの行動はギリシャの公約実行次第 ◎IMF理事会がギリシャ支援規模を決定

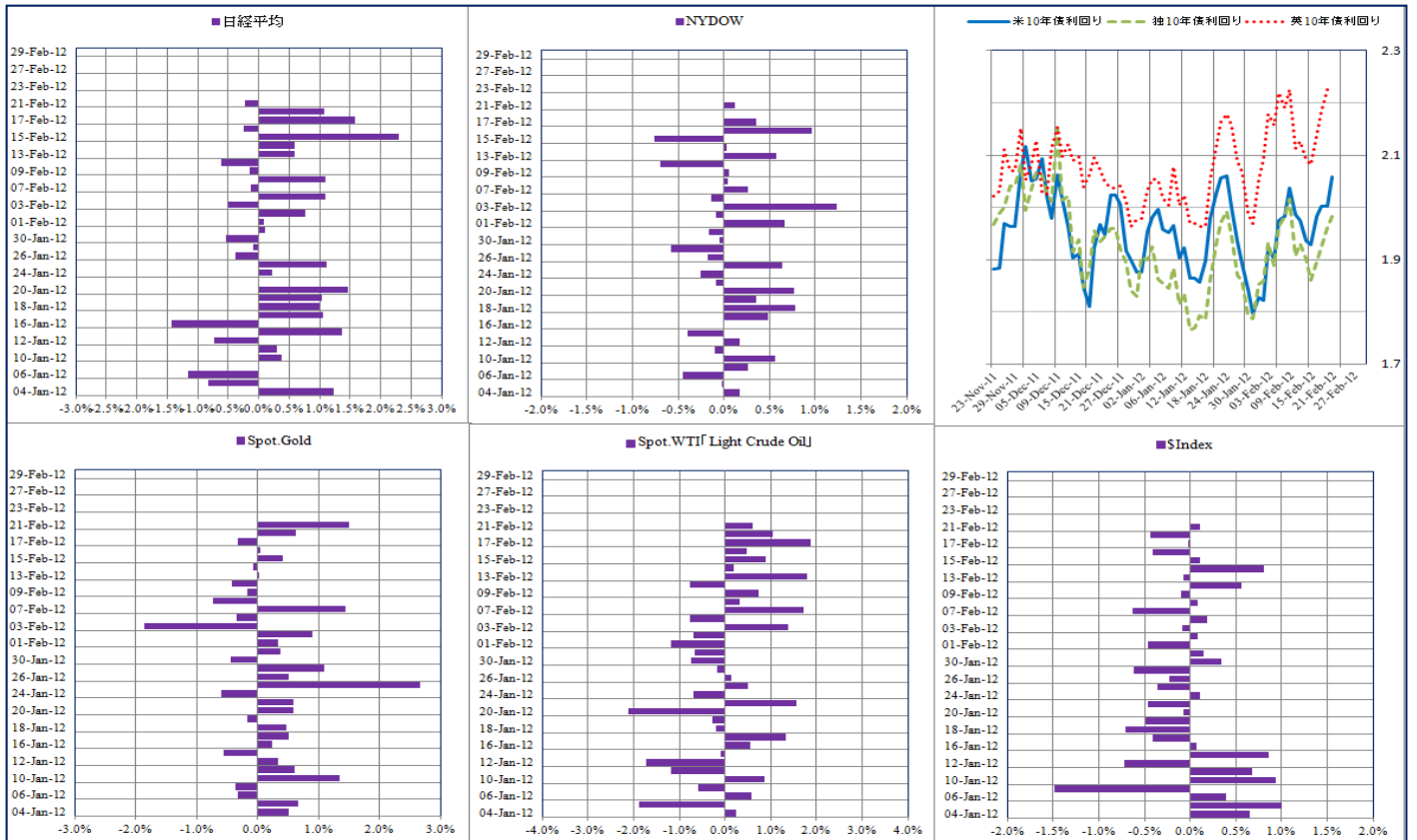
	シヨイブレ独財務相 = ◎ギリシャは事前の行動を完了させる必要がある 案ルギリシャの返済はエスコロ勘定を通じて行われる ◎第2次ギリシャ支援は1300億ユーロを超えることはない ◎ギリシャ債務は、トロイカ試算では2020年にGDP比120.5%に ◎ギリシャ1次支援の金利をEURIBOR+150の上乗せまで引き下げた水準にした ◎財務相会合は民間部門の投資家に53.5%の債務減免を提案 ◎欧州委員会はギリシャ経済計画の実行と監視を目的にさらに職員を派遣することで合意
	ECB = ◎保有するギリシャ債から得られる利益をユーロ圏の各国中銀を通じて各国政府に分配する
	デヤール・オランダ財務相 = ◎ギリシャへの合意で実行のリスク ◎EFSFの増額を引き続き支持、IMFがギリシャ救済に重要な貢献を行うように望んでいる
	パパデモス・ギリシャ首相 = ◎新たなプログラムの立法化で多くの努力が必要 ◎第2次支援の合意は歴史的
	国債金融協会 (IIF) = ◎ギリシャ債務スワップは53.5%のヘアカットを織り込む ◎債務交換の提案は自主的な合意と整合性 ◎ギリシャ新発債は英国法に比杯される
	ギリシャ財務省は集団行動条約導入の法案を議会に提出 = ◎ギリシャ政府は近く、ギリシャ法の下で発行されたギリシャ国債に関する法律に、集団行動条項を導入する法案を議会に提出する ◎法制化が決まれば、必要であれば同法を適用することができる
	ユーロ圏財務相会合の声明 = ◎政策パッケージでギリシャ政府と合意に達したことを歓迎 ◎ギリシャ議会の政策承認や今年3.25億ユーロの歳出削減の具体化や、次回選挙後のプログラム実行の連立与党、2党党首の約束を歓迎 ◎ギリシャ当局と民間部門の債務交換案は債券保有者全員を対象に大筋で合意に達し、共通の理解では債務減免率53.5% ◎ECBと各国中銀はギリシャ債保有の利益を各国中銀に提供、各国政府に供与される ◎民間と政府部門の貢献で、ギリシャ債務のGDP比率は2020年までに120.5%まで確実に押し下げられるはず ◎ユーロ圏各国は2014年までに1300億ユーロの追加プログラムを提供 ◎EFSFと通じて行いIMFが貢献する。
	エミエール氏 (IIF) = ギリシャ債交換は純現在価値で70%を超える損失を意味する

AUD	豪中銀金融政策委員会の議事録(政策金利の0.25%引き下げ予想が多かったが、金利据え置きが発表されAUDが上昇した経緯があった) = ◎政策金利据え置きの理由は、欧州債務危機の影響が後退、国内景気が回復で、据え置きが適切と判断した ◎理事会メンバーの大半は、貸出金利は2度の利下げ効果に平均付近にあると指摘
AUD	豪中銀金融政策委員会の議事録 = ◎需要が著しく弱まる場合には、金融政策のさらなる緩和余地がある
OTH	トルコ中銀 = ◎下限政策金利5.75%で据え置きを決定、上限は12.5%→11.5%に引き下げ

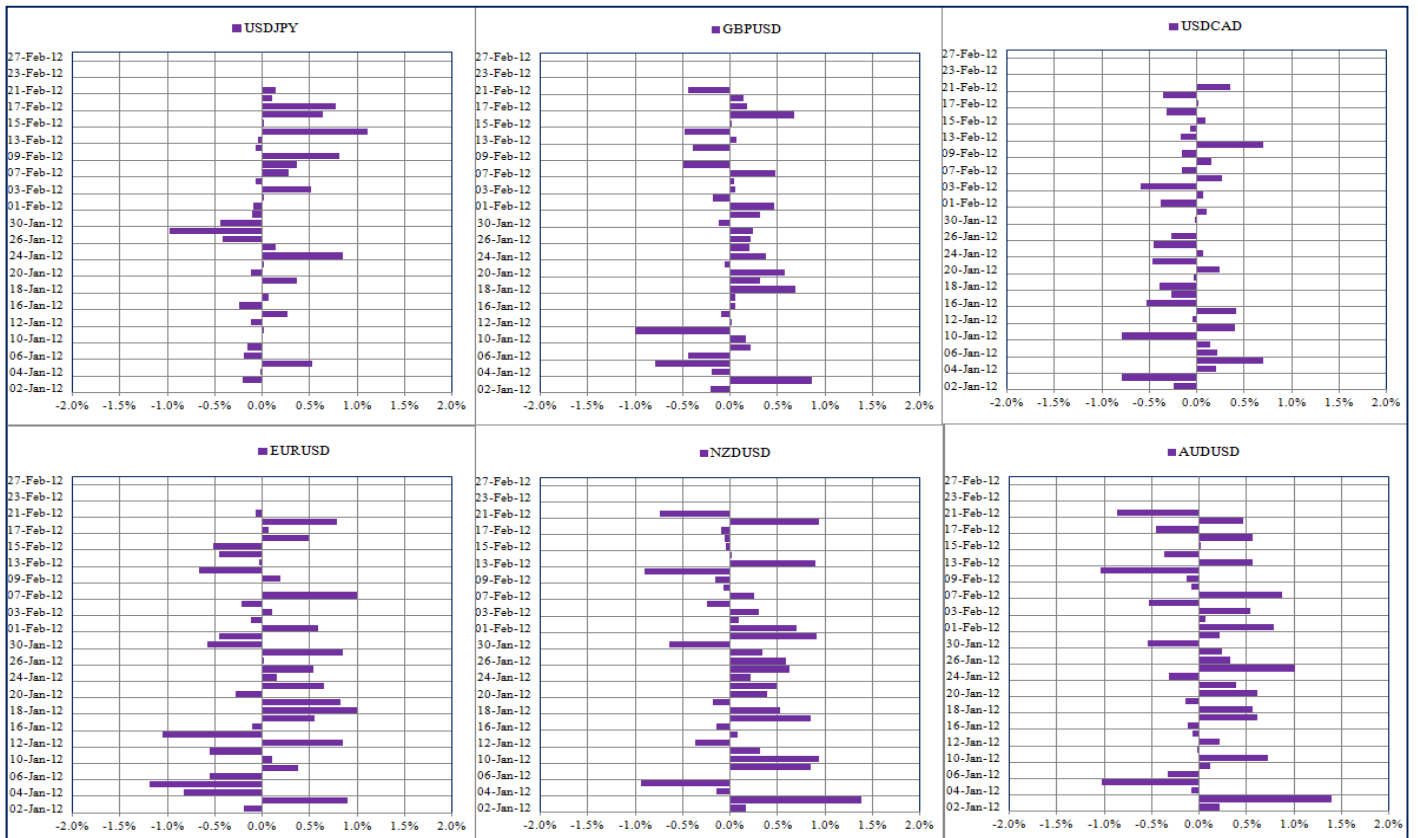
前日の経済指標と結果

9:30	AUD 豪中銀(RBA)2月の金融政策委員会の議事録公表
11:00	NZD 第1四半期 NZ中銀(RBNZ)インフレ期待(2年間) = 前期比2.5%(予想 前回2.8%)
13:00	JPY 12月 全産業活動指数 = 前月比1.3%(予想1.5% 前回-1.0←-1.1%)
16:00	CHF 1月 貿易収支 = 15.5億スイス(予想25億スイス 前回20.1←20.7億スイス)
18:30	GBP 1月 公共部門純買入所要額(PSNCR) = -168億ポンド(予想-247億ポンド 前回228←229億ポンド)、公的部門純買入額(除く金融介入) = -78億ポンド(予想-63億ポンド 前回140←137億ポンド)、公共部門ネット負債 = -107億ポンド(予想-91億ポンド 前回111←108億ポンド)
22:30	CAD 12月 小売売上高 = 前月比-0.2%(予想-0.2% 前回0.4←0.3%)、除く自動車前月比0.0%(予想0.2% 前回0.4←0.3%)
22:30	CAD 12月 卸売売上高 = 前月比0.9%(予想0.5% 前回-0.3←-0.4%)
22:30	USD 1月 シカゴ連銀全米活動指数 = 0.22(予想0.22 前回0.54←0.17)
0:00	EUR 2月 ユーロ圏消費者信頼感 = -20.2(予想-20.1 前回-20.7)

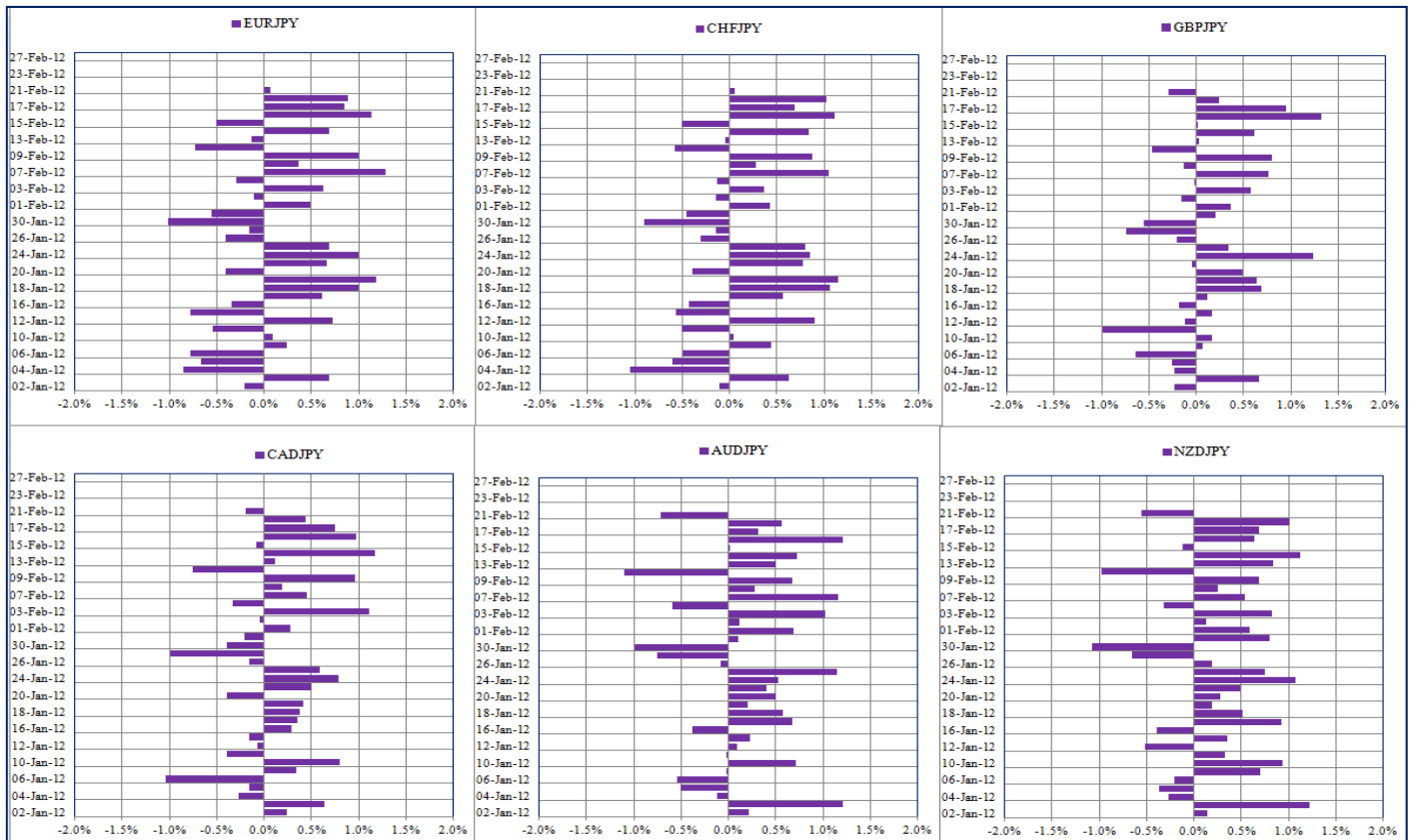
日経平均株価・NYダウ平均株価・SpotGold・SpotWTI・\$Index の(Daily 変動率)、10年債利回りのDaily 推移と比較



主要通貨のDaily 変動率 (%)



円クロスの Daily 変動率(変動率)



USD=米国、JPY=日本、GER=独、GBP=英国、CAD=カナダ、AUD=豪州、NZD=ニュージーランド、
CHF=スイス、NOK=ノルウェー、SEK=スウェーデン、CHN=中国、FFR=フランス

本レポートで言及している市場予想の出所=fx360.com,ロイター社。各国経済指標・日時の出所=fx360.com ロイター社

外国為替保証金取引(FX)及びCFDには、高いレベルのリスクが潜在しており、全てのお客様に適した投資商品とは言えません。高いレベルのレバレッジは、利益ももたらしますが、損失ももたらします。預託した資金を超えて損失を被る可能性もあるため、損失に耐えられない金額を投資するべきではありません。過去のパフォーマンスが、必ずしも将来の結果を示唆しているわけではありません。

本レポートの内容は

- 情報提供の目的にのみ供されるものとし、いかなる投資商品の提供・勧誘その他法的に拘束され得る行為、また、それら投資商品の推奨、助言等を意図したものではありません。
- マーケットに関する意見・予想はその正確性や完全性についてそれらを保証するものではありません。
- レポート著者の予想・意見は必ずしも、弊社及び弊社関係者の見方を反映したものではありません。
- 筆者によって提供される市場に関する如何なる予測や見解についても、その正確性が検証されている訳ではありません。
- 当社は本レポートの内容に依拠してお客さまが取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。

GFT はお客様への一般的な情報として本資料を提供していますので、投資判断を行う際の詳細な独自調査に代えて本資料に依拠することはお控えください。

GFT は、本資料に含まれる情報に基づいた投資の結果として発生した損害に対して、如何なる責任も負いません。また、投資、法律、会計、税務、またはその他の専門的助言についても、一切提供することはありません。これらの専門的助言が必要な場合は、専門家にご相談ください。

同支店は、日本においては、グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッドとして第一種金融商品取引業者登録(関東財務局長(金商)第268号)および商品先物取引業者許可を取得しており、社団法人金融先物取引業協会および日本商品先物取引協会の加盟業者です。www.gftforex.co.jp

© 2011 グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッド 著作権/著作権所有。無断複写・複製・転載を禁ず。

CD08J.005.113011